

平成 25 年度第 2 回青森市子ども・子育て会議（会議概要）

- 1 開催日時 平成 25 年 11 月 9 日（土）10:00 ～ 12:00
- 2 開催場所 青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）3 階 大会議室
- 3 出席委員 内海隆 会長、赤平怜子 委員、天内博久 委員、五十嵐容子 委員、  
（16 名） 一戸倫子 委員、伊藤えり子 委員、今村良司 委員、葛西義明 委員、  
工藤研一 委員、久保田正美 委員、佐久田今日子 委員、佐藤えり 委員、  
柴田園子 委員、清野千世子 委員、橋本歩 委員、山田孝憲 委員
- 4 欠席委員 大村育子 委員、工藤協志 委員、鈴木互 委員、宮崎秀一 委員  
（4 名）
- 5 事務局出席者 健康福祉部長 赤垣敏子、次長 貝森敦子、  
子どもしあわせ課長 舘山新、副参事 小倉信三、主幹 土岐志保、  
主幹 太田直樹、主幹 竹内巧、主査 駒ヶ嶺祐、主事 小野寛史、  
子ども支援センター所長 高坂道子
- 6 会議の要旨

- (1) 開会
- (2) 健康福祉部長あいさつ
- (3) 議事

・子ども・子育て支援ニーズ調査及び教育・保育提供区域の設定について  
事務局から資料 1、資料 2 及び資料 6 について説明。

○委員

調査票は、回収率を上げるという点で、保護者が回答しやすいよう全体を通して優しい言葉で、また、ルビを振るなど工夫して欲しい。

○委員

字体は明朝体ではなく、ゴシック体等の方が見やすいのではないか。また、挿絵は余白がある表紙に入れて欲しい。

○委員

アンケートを実施した際、カラー化や、挿絵やイラストを入れたところ回収率が上がった。また、設問を記述式よりも選択式にすることで回収率が上がる傾向にある。携帯のメールでのアンケートも回収率が高い。文字を書かないで済むのであれば意見は言いたい、というのが子育て中の保護者の本音だと思われる。

○委員

回答率を上げるには、「何のためにこのアンケートを取っているのか」ということを分かりやすくする必要があるのではないか。

○会長

文字については考えてもよいのではないか。表紙に挿絵やイラストを入れることについては、役所によるアンケートだということ、ある程度の一線は守りたい。また、アンケートは時間的に30分近くかかり、お子さんが横にいて回答できるかどうかということもあるが、青森市子ども総合計画の経年変化や進捗状況を探るには、設問項目を減らすことは勇気がいると感じる。

○事務局

回収率を上げるための御意見を参考に、字体や挿絵について工夫させていただく。

○委員

アンケートを発送する前に関係機関にリーフレットなどを配付し、調査への協力を呼びかければ回収率は上がるのではないか。

○会長

事前にアナウンスすることは可能か。

○事務局

可能である。

○委員

携帯等からアクセスできるようにすれば、保護者は任意の時間で回答することができる。調査票は必ずしも紙である必要はないのではないか。

○事務局

確かに回収率は上がるだろうが、システムの改修をしないと対応できない。

○会長

本当は、手軽にその場で答えられる調査が一番いい。

委員の皆様には、事前に何らかの機会にこのような調査があることを周知して欲しい。

○委員

調査票の返信用封筒はポストに入るのか。

○事務局

入る。

○委員

青森市でトワイライトステイやショートステイを実施していないにもかかわらず、調査票に記載しているのはなぜか。

○事務局

保護者のニーズを見極めるためである。

○委員

資料3（修正版）にある「教育・保育事業の実施場所一覧」は、地区ごとに教育・保育事業の実施場所が記載されておらず、非常に見づらい。

○事務局

例えば、現在利用している幼稚園の名前から地区を見ることになるので、このように記載している。

○事務局

設問がどういう施設を利用しているのかという切り口から入って、次に、その施設の場所を聞いているので、保護者が調査票の設問の内容に沿って回答しやすいよう、設問と合う形にしている。

○委員

回答の有効性はどのように判断するのか。また、健康診断の際に調査を実施する方が、回収率や回答の有効性が高いのではないか。

○事務局

こちらとしてはいただいた回答の内容でしか判断できないため、正しいものとして捉えるしかない。また、調査対象者は無作為で抽出することを前提としている。

○会長

今回の調査は国のひな形を基に全国で行われるため、あまり独自のカラーで実施しない方がいいのではないかと。

○委員

資料 3（修正版）の問 19 の選択肢に「部活動」とあるが、市内には 3 年生以下を対象に部活動を実施している小学校はあるのか。

○事務局

3 年生から実施している小学校がある。

○会長

資料 1 に該当する部分あるいは資料 2 の教育・保育提供区域について、御質問、御意見はあるか。

○委員

区域に関して、最終的には青森市全体の需要の中で調整する機能をどこかで持たせないと危険なのではないか。

違う区との連携や区ごとの特色が出てきた時に対して考慮する余地が必要ではないか。今、区切った区が、将来も絶対的なものなのか。

○事務局

5 年に 1 回、見直していくということがこの計画の前提にある。区割りにおいても 5 年後にはその時の状況を見て見直す。

職場に近いところでのニーズを踏まえて設定すべきとの御指摘については、自分のお住まいでないところも希望している方がいるという実態を踏まえての、それを飲み込めるエリアということで、この設定を考えた。

○委員

よく分かった。いろいろな諸事情も飲み込んで運用できる区であるということ、共通理解としてはっきりさせておかないと、後で違う解釈が発生してしまう可能性があることを懸念している。

○事務局

市の区域設定の考え方は、当該地区にある保育所、幼稚園の希望率として、東部地区の保育所でいえば、保護者の方の 30%がこのエリアでないところを望んでいるという実態を捉えて、制度設計をしていくことになる。

○会長

全体を通して、御意見、御質問をいただきたい。

○委員

資料 3 の表紙に「青森市の子どもたちのためにご協力ください」など、モチベーションが上がるキャッチコピーを検討いただきたい。

○事務局

表紙の余白を上手に使ってみたい。

○委員

文章のフォントについて、国の調査票のひな形を真似たらどうか。

○事務局

工夫してみる。

○委員

アンケートを書く方が途中でやめてしまわないよう、欄外に「半分来ましたよ」とか「あともう少しですよ」などのナビゲーションを記載してはどうか。

○会長

ナビゲーションは必要かもしれない。検討して欲しい。

○委員

調査票を発送してから回収するまでの期間はどれくらいか。

○事務局

大体 2、3 週間と見込んでいる。

○会長

今回、委員から出された意見をできる限り反映した調査票にしていきたい。

(4) 閉会

平成 25 年度第 3 回青森市子ども・子育て会議（会議概要）

- 1 開催日時 平成 26 年 2 月 16 日（日）10:00 ～ 12:00
- 2 開催場所 青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）3 階 大会議室
- 3 出席委員 内海隆 会長、赤平怜子 委員、天内博久 委員、五十嵐容子 委員、  
（17 名） 一戸倫子 委員、伊藤えり子 委員、今村良司 委員、大村育子 委員、  
葛西義明 委員、工藤協志 委員、工藤研一 委員、佐久田今日子 委員、  
佐藤えり 委員、柴田園子 委員、清野千世子 委員、橋本歩 委員、  
宮崎秀一 委員
- 4 欠席委員 久保田正美 委員、鈴木互 委員、山田孝憲 委員  
（3 名）
- 5 事務局出席者 健康福祉部長 赤垣敏子、次長 貝森敦子、  
子どもしあわせ課長 舘山新、副参事 小倉信三、  
主幹 嶋中しのぶ、主幹 土岐志保、主幹 太田直樹、主幹 竹内巧、  
主査 駒ヶ嶺祐、主事 小野寛史、子ども支援センター所長 高坂道子
- 6 会議の要旨

(1) 開会

(2) 健康福祉部長あいさつ

(3) 議事

①子ども・子育て支援ニーズ調査の単純集計について

事務局から資料 1 について説明。

○委員

定期的な平日の利用状況のアンケート結果では、第 1 位以外のニーズも見る必要があると思う。

○委員

単純集計の少ない部分も、きめ細かに見て量を設定してほしい。

また、保護者の方は、保育所、幼稚園、認定こども園の区別及び児童館、放課後子ども教室、放課後児童会の区別を理解した上で、お答えいただいているのか。

○事務局

単純集計の結果については、数字だけを淡々と述べるに留まり、極力、事務局の考えを入れなかったようにした。

また、保育所等の区分、児童館等の区分については、アンケートの中に説明を付したことから、回答者は理解しているものと認識している。

○会長

新しい公共という政策が出されているという流れがあることを押さえた上で、議論を進めていく必要があるだろう。

○委員

これだけの数のお答えをいただいた。それから、皆さんに関心のあることが分かったので、議論して良かった。

○会長

短期間の中で協力していただいた。5割以上の回収率は、いいデータに繋がると思う。

○委員

認可外保育施設の入所児童数は、保育所や幼稚園に比べて少ないにもかかわらず、調査の結果に出ており、すごいと思った。

○委員

子どもを育てることについては、もっと多くの人が前向きな姿勢で携わっていると思っていたため、この調査結果にショックを受けた。

○委員

青森市内は保育所志向だと思っていたが、学校という、大きな教育のくくりの幼稚園や認定こども園にもニーズがあることが読み取れた。

○委員

私用、親の通院、不定期の就労等の目的での預り先は、地域や小規模なところが多いので、顔が見える関係の中で預かる方が安心なのだろうと思う。

○委員

「身近な地域で、子育てに関する不安や悩みをどなたに相談していますか」の問の選択肢の1つに、認可外保育施設を入れればよかった。

○委員

放課後、小学生の子どもが保育園で過ごすというのが、意外に少ないと思った。

また、小学生の子どもがいる保護者の方にとって、現実的に仕事を優先せざるを得ない状況は、もっと多いと思っていた。

○委員

放課後子ども教室等について、よく分からない方もいるのではないかということだが、そのとおりだと思う。もっと放課後子ども教室のPRに努めなくてはならないと感じた。

○事務局

放課後の子どもの居場所についての冊子を作成し、来年度の新1年生に配付するほか、小学校をとおして、対象学年のお子さんにも配付することとした。

○委員

子どもが病気になったときの対応を検討していただきたい。

○委員

子どもが病気的时候は、親や祖父母がみてあげることが、子どもにとって一番幸せだと思う。

病児・病後児保育施設の経営は非常に厳しい。箇所数を増やそうとするのであれば、慎重に考えていかなければならない。

○会長

ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画とは逆行するが、ある一定年齢までは、母親が子どもの面倒を見ざるを得ない状況があるという実態を理解しなければならない。

②教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みの算出方法について

事務局から資料2について説明。質疑応答なし。

③今後の審議事項について

事務局から資料3について説明。質疑応答なし。

(4) 閉会